

拝啓 先日は、お忙しい中お手伝いにおいでくださり、感謝の申し上げ  
ようもございません。心からお礼申し上げます。お陰様で初七日もつ  
がなく済ませることができました。

亡き父が喜寿を超え天寿を全うできましたのは、平素からの長谷様の  
ご厚情のたまものにはかありません。よいご親戚に囲まれた、幸福な一  
生でした。昨日ようやく形見分けに気がつき、亡父の遺品を整理してお  
りましたところ、生前大切にしていた信楽の壺がありました。目ききの  
長谷様にもほめられたと大層自慢の品でしたので、お受け取りいただけ  
れば幸甚に存じます。本日別便でお送りいたしました。

不足のない享年とはいえ、そこはかとなし寂寥が消えません。先立つ  
た父も、あちらで寂しがっているかもしれませんので、壺を通してお  
話でもしていただきたく存じます。

敬具